075062-000-7

特42-475

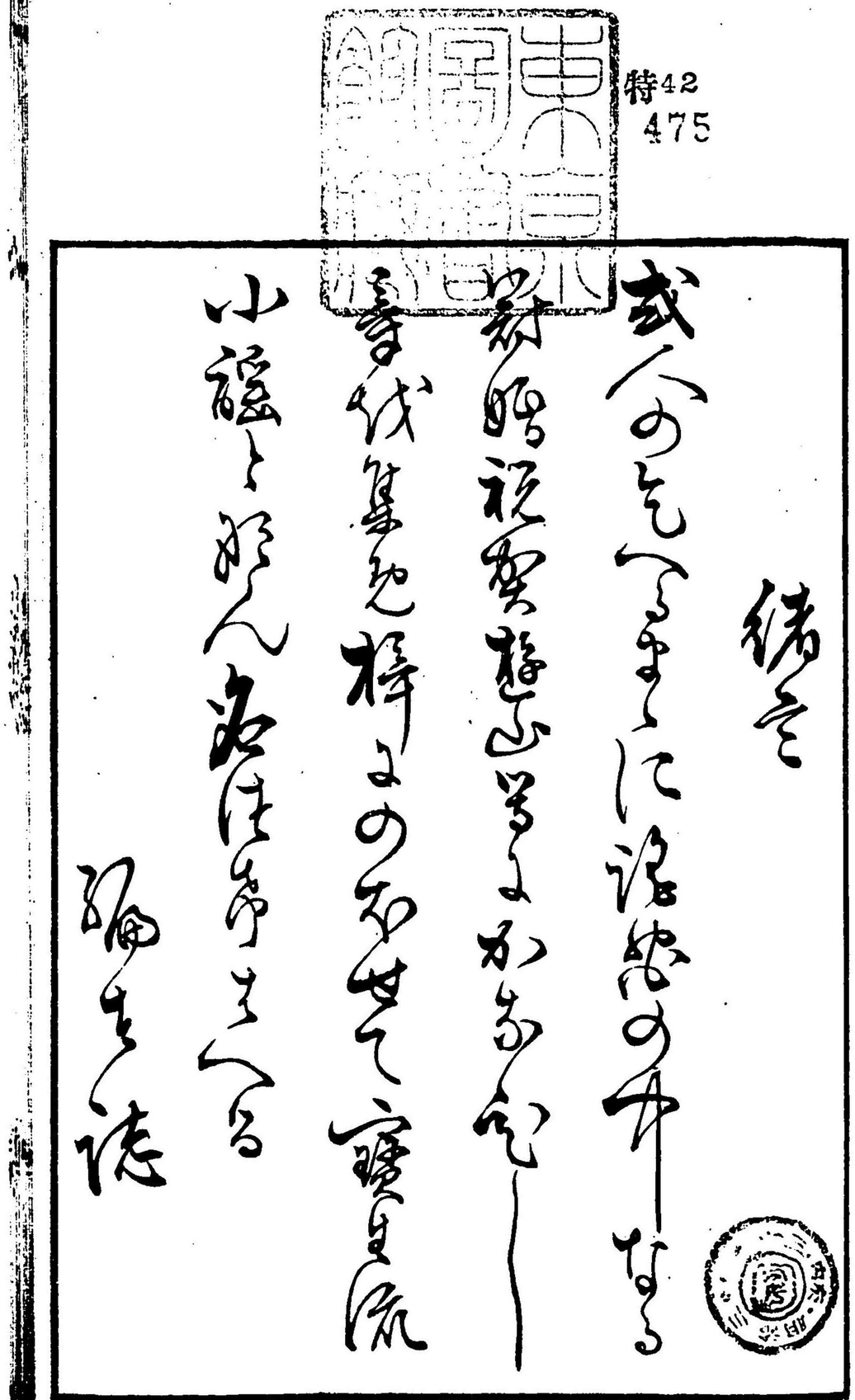
宝生流小謡

細 友次郎／編

M29

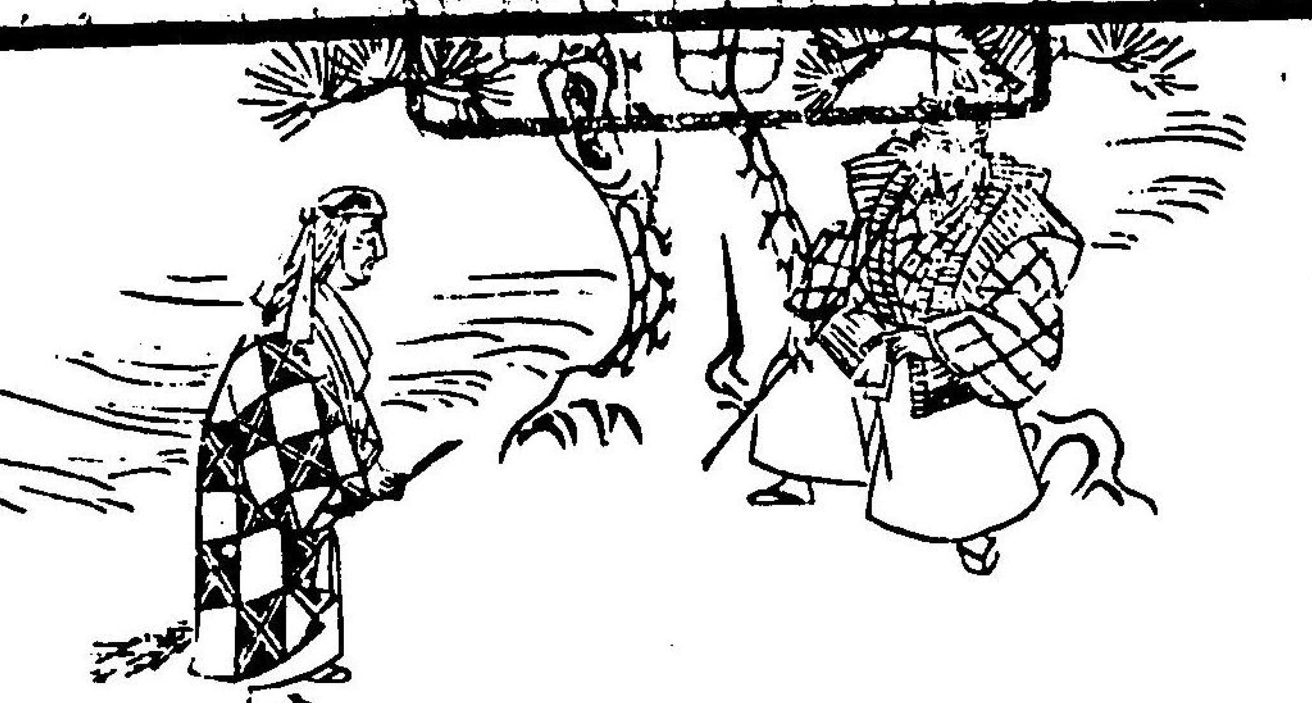
CEL-1054

特42
475



目録　頭書能小道具造物之圖

高砂	同	同	同	田村	同	同	同
熊野	難波	同	同	同	老松	同	同
養老	同	同	同	邯鄲	同	同	護法
鶴亀	春栄	俊成忠則	玉井	元服曽我	松虫	伏見	蟻通
同	鞍馬天狗	同	同	烏帽子折	女良花	頼政	草紙洗
弓八幡	同	同	志賀	嵐山	藤栄	羅生門	同
弱法師	感陽宮	皇帝	竹生嶋	同	同	鉢木	羽衣
猩々	右近	同	冨原与市	自然居士	三井寺	放生川	同
國栖	同	舟弁慶	葛城	白楽天	同	融	同
春日竜神	唐船	和布刈	同	鸚鵡小町	道明寺	同	竹ノ雪
浮舟	鷺	八嶋	雲林院	小塩	同	小鍛冶	岩舟
同	大蛇	源大夫	白髭	西王母	花筐	加茂	松風
求塚	熊野	高砂	鉢木	鶴亀	猩々		



高砂ノ圖

高砂　祝言

上ツヨク 扨ハ高砂乃尾上の松も年ふりて老の波もよりくるや木の下蔭の落葉かくなる迄命なからへて猶いつまてか生の松それも久しき名所かな

ツヨ上 同 四海波しつかにて國も治まる 同

翁

三番叟

慈童

小尉

笑尉

朝倉尉

小こたい

附ほ風ぜ枝をなよらぬ柳氏あれ
やなのひ（ヤヲ）おおきみ乃松こうめこるも
りをきみ（ヤヲ）ろろやうふ添よにまある民とそ安
のあるみ君乃恵こり有経き〳〵

同　祝

ツヨ（上ヲ）うふおやう（ヤヲ）此ともに出ほの波乃淡路の嶺

ツヨキリ（上ヲトリ）さゆうふ（トリ）あるよ悪魔をそら沖るそ早
さむるも手にき（トリ）猫をいさ子
秋楽ハ民を捨お栄ゆきの
ちをおおき乃松風颯〳〵舞
そ楽〳〵

三光

名荷悪尉

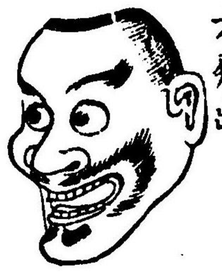
鷲鼻悪尉

上ヨワ
白ぬみ　田村　遊山

生桜の枝そとかくせはいる
外山おろし村のつらはそとみる
乱舞の歌

ヨハク　同　退著

長良癋見


大飛出

小飛出

上ヨワ
ヨハク　同　宛兄

頼政　不動　鷹

（ツヨ上ノ）

あまれ　ひとをきれ　ゆめ　ゆめ

経政　祝言

あまりに　ひとをきれ　ゆめ　ゆめ

三日月　中将　十六

（ツヨ上ノ）

あまねくてらす　沢日影　哉

同　日

ふかき　ちぎりや　都路の　雲　直なる　清代を　この
ふのむもと　笑の　声ぞ　こゝ　里まで。
あまねくてらす　沢日影　哉

（ツヨ上ノ）

難波　祝言

ゆく　末を　波津よさくや　この　花ごも
よ　竜　梅の　ちぎりを　なをさぬみ
ゆく　末を　波津よさくや　この　花ごも

若男（わかおとこ）

獅子口（ししぐち）

俊寛（しゅんかん）

ツヨ

なれるまつのおもかげも
めしつかはるる身ぞ代ぞた
きそ〳〵就まして久度きおさめ
ゆくりなくも
ツヨ
ゆくりなくも
みまかる法の宴の中
ちぎりおきつる
ちぎりおきつることをたくまつる

同　祝言

同　同

天神（てんじん）

痩男（やせおとこ）

蛇（へび）

ツヨ
上ゲ
松うら風、
おろす乃道迄も
こゝ山のあるにしたがひ
はもをーそのふく花巻の手折やな

老松　花見

男鄙（なんおとこ）

小面（こおもて）

童子（どうじ）

ツヨ上

かやうめもゝしを花も

同　祝言

かやうめもゝしを守梅乃ゑ垣いさやかこゝん

かやうめもゝしそ乃行末久よみうちや。ゆ

かやうめもゝしを花も乃。

かやうめもゝしを花も乃。

増（ぞう）

増髪（ますかみ）

曲見（あやくみ）

ツヨ

かやうめもゝしを花も乃。

同　同

つるかめも千代いお代の寿とうや

ツヨ上

長生の家よまろ老をぬうやハゐお

同　同

まちかねし我神渕の告を乞そら。

松風も梅もろ〳〵き春こうめて

深井

泥眼

痩女

孫次郎

万媚

姥

小うたい

ツヨ上ゲ

老をうたに養ひ。まして。まさん人の労

めぐみあつき。ふかきは。寿命長

を松蔭の岩井より水。湧出て。老

ツヨ上ゲ

変なき心こそ。尚行末も久しかるべし

同　祝言

ツヨ上ゲ

やちよ水乃。水よりあるは。代々

流れは。絶ずして。栄ん人の労

添姓こそ。めでたけれ。まのあたりにて。栄ゆくを

ツヨ上ゲ

見頭の丹楓。落や。涙をもよほす

らすべりの。離の。秋風ハ林葉も秋

を汲ありや。晋れも。笑う。乗み劇

伯倫の歌ひ。唯此水を。汲ばや。汲や

同　旧

をかめみ菓を君にあまま捧まん

同　祝言

隠さゞ見ゆる山の井の実も無き
思ふより老れ若も若水とみる
うれしかりけれ

鶴亀　祝言

庭まさご金銀の砂を敷四方の門を
乃玉の戸を出入の人までも栄え

をかさるよそほひ錦や袂
し寂光の都花見遊の楽しも
くやと思ふぞうれしき気色かな

同　同

まことは是は長生殿の中には春秋を留めけり不老門の前には日月遅しといふ心をまなばれたり

同　同

弱法師

摘姫女

生成

神体

大悪尉

小悪尉

筋輕士

蛙

額

乃言能、体際の行きて鴉巡のそし、
池の汀、沼あも、汀岩はるめいぎ蓮来いも毎
、ら次、君は恵そ多く経き

当上

なほ
あ
風も

まさ栄　祝そ

よろこひ乃盃も影も回
日新。守豊れ之鳴乃神
も治堂て代のそめ

大癋見

小癋見

黒鬚

戴ろ
今夏

おのの
つら
ん

乃ら
婦は

ヨハク

後成忠別　祝そ

そ袋鴉
もつさせ
神を地之男めそ
そ詰ろ乃情ある

般若

猩々

一角仙人

元服當秋　祝言

年ごろ月をむかへてもの思ふ人をいそそのかすや月の光も

やどるもに露をも玉と磨かれて今ぞ

見るめも花のかをり

玉井　祝言

ちよろづ代を松の葉ごとに数そへて

田村ノ圖

くもりなき月の桂乃光りそふ元

たをつゆも玉乃井れ。みるきもおりそ

るもみねく誘ふもして。朝夕ふ

たのをしや〳〵

松虫　商業祝

蟲よたゞ秋をも限らや。松虫乃

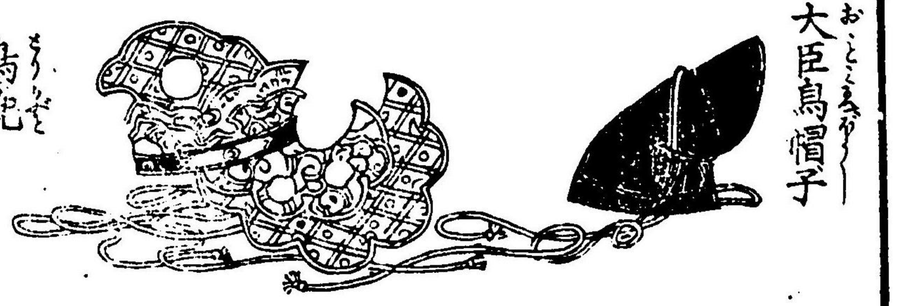
音もたえ〳〵いつまでも萌れいた

ヨハク上ノ

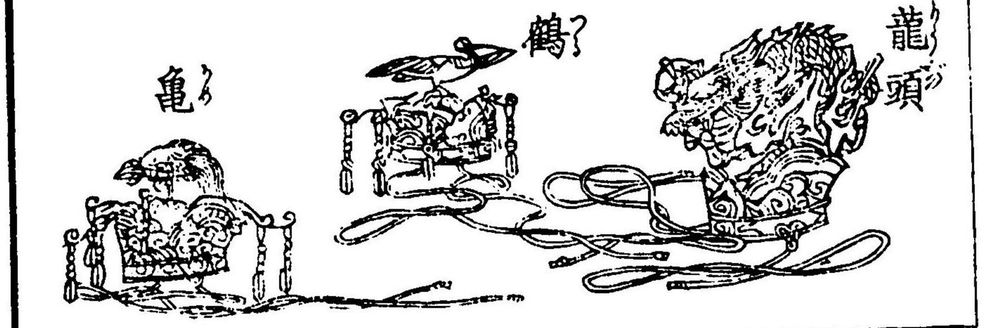
ヨリ上ノ

ヨハク上ノ

ヨリ上ノ

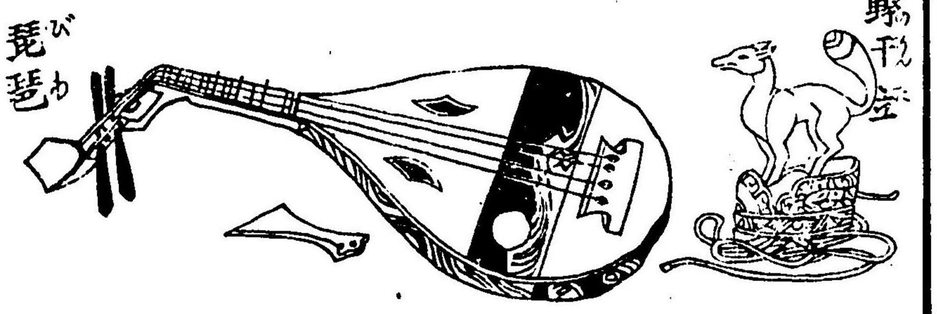


ヨリ上ノ

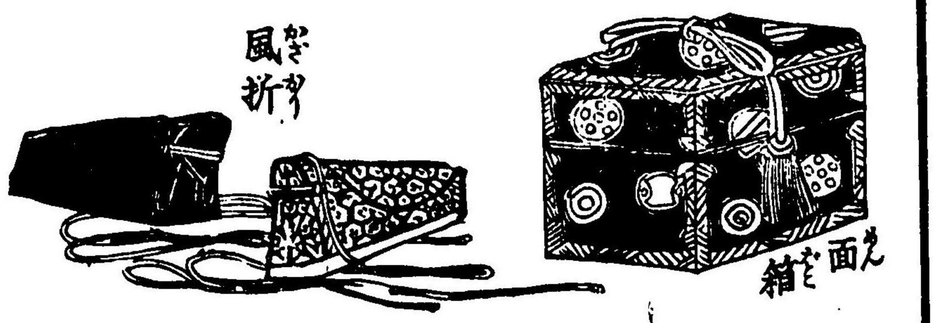


三ノ切
越鳥南枝よ馬北風よいたつらう、ヤヲ、ハテ、ハテ、
ヨハク上音
花ハ上音
鞍馬天狗　花見

花ハ吉んとこしの山里の仕
ハ年り馬よ鞍くら風乃山れう
ハテ梅ぢや折をもつてまて奥



ヨハク三ノ切
花ハ
ハテ、
同　花見



ヨ分下
ヨ分上

梅の花　同　花元

島帽子折　成人祝

ヨ分

女郎花　神多

舎利

羽團

鍬形
瀧珠
千珠

鎌

幣

珠數

九鳩の岩ねくみもいこま千世
月の影もよろあら浪千里も同じ
流れあまの玉垣そろ
とふわろ
頼政 世興
実や名も取あへず都よもちまき
ひの里ま堀る名所

ツヨ

上月

なが神よあゆみを運ぶあり

同　祝言

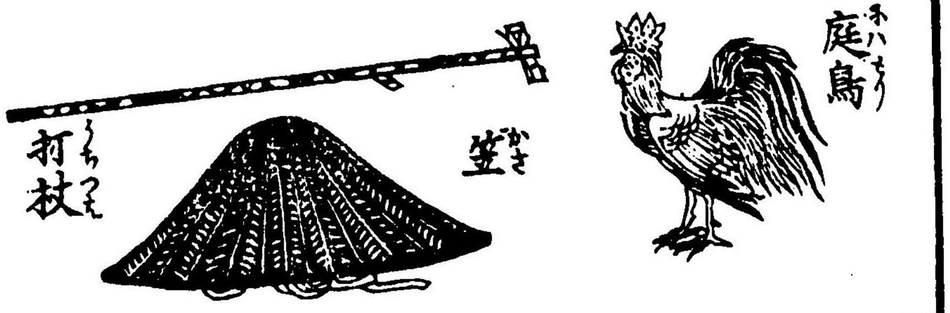
栄のゆくすえ久しかれやとて

ちとせ経ぬべき海はあるらし君が代

雲も水鳥乃ほしくもあるかな

なびく草木も神徳そめむとも

あゝ成法神徳そめむとも



ツヨ

神徳そめむとも

同　祢多

七日七夜のはれ雨神よとも

砌雪ふまし神も感応乃海山

松も緑の千代ふるかぎり国土城

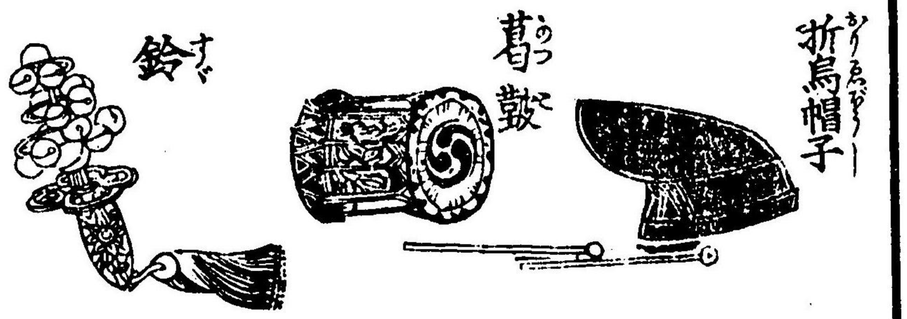
守り給ハゞ三所の神

徳そめむとも

志賀

宮や今も立ち並ぶ軒を争して世界之
言葉の通れるのつらいも
今も昔も道やく
あくる山 神名
ちゝをもの若乃種うゑあら
山なるく
なこそ乃神あそひそめてた

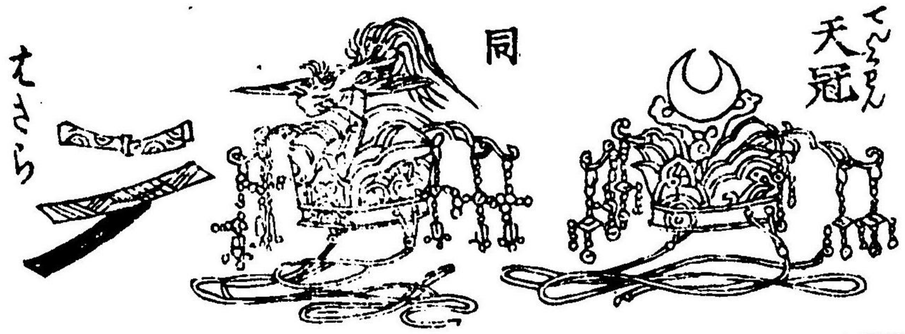
藻葉



佐いその笹乃情ある雨をふらね
如意珠宝ハ一樹空浜おそふめ

羅生門 祝言

傳ふひめうふ法人よみさを
きそ梓らやたを心乃ひとなる
まてさろつる城とりくる
ふそもれ海ゝそりおみある



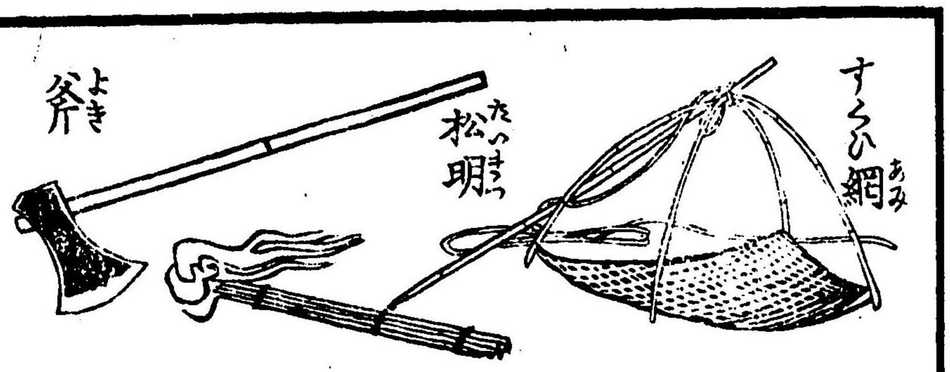
中れ酒盃の事

右ヨリ同　酒盃

一、三方ノ上ニ紫乃表良好ひ
　　きくまきのお面ちやう
　　こころ清ぬ中れものそふ
　　れをおもて詰めそろかにも
　　てくみよりて清らや

ヨリ

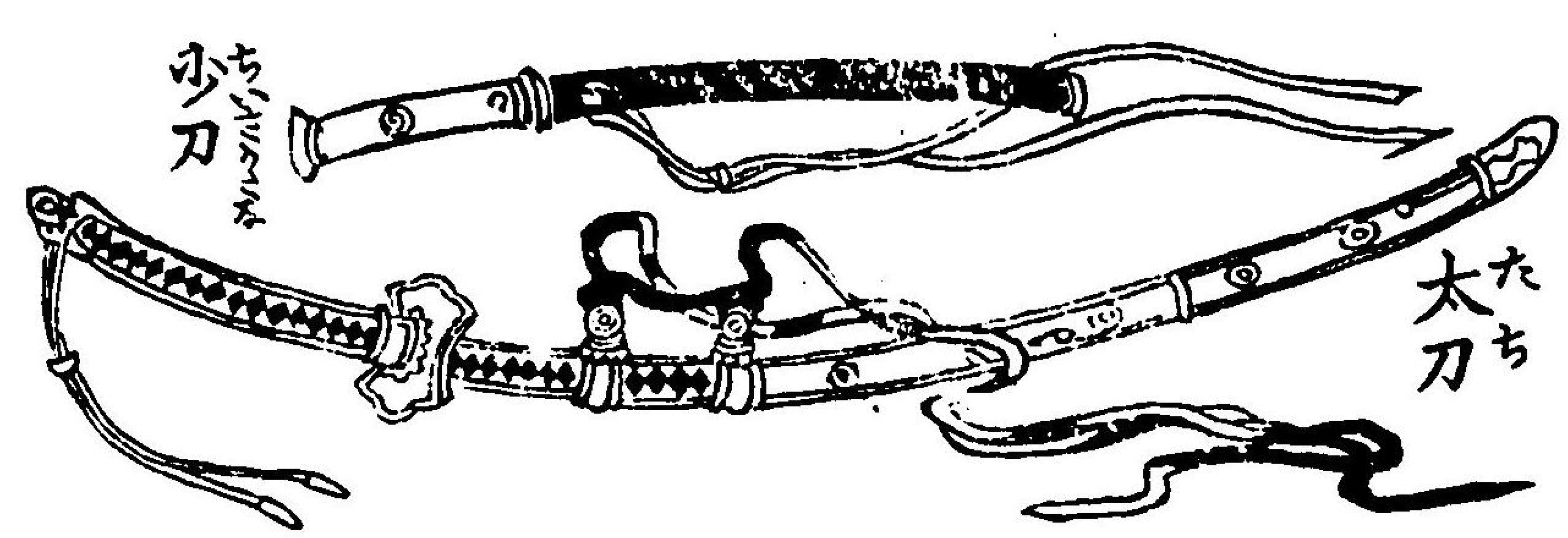
弱法師　同



一、ふりやう盲乞我おまてみること
　　ちやうる梅うえ乃。花の春ハ長
　　閑さハ弱法師のはよりもまれし

感陽宮　盲世音説

一、上ヨリ
　　ゆもまつ
　　そてはる乃階乃金泥を磨
　　て鞭まの。時日月の影をぬそ
　　天を治るこころして各肝を



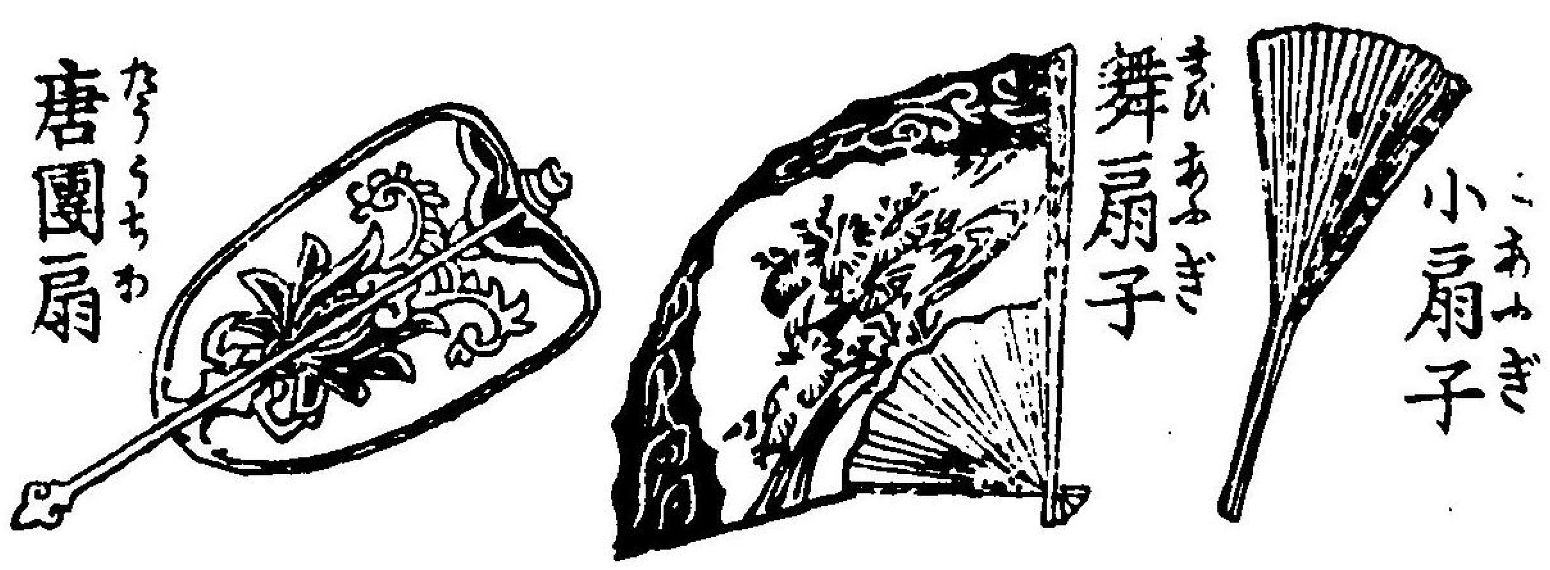
渚くやく

皇帝　祝言

総也借て唱竹の壽なれば
説契の天長く地久しくて盡
る時も有じ

竹生嶋　和遊

名所多き嵐にてらゝ山の姿て
詠まハ志賀れ都花園むらし

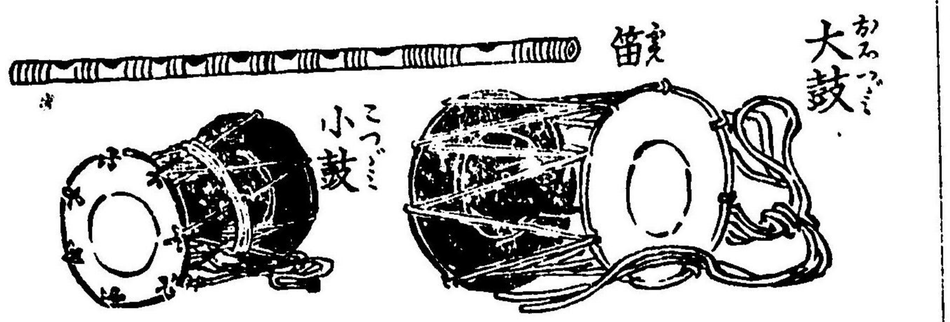


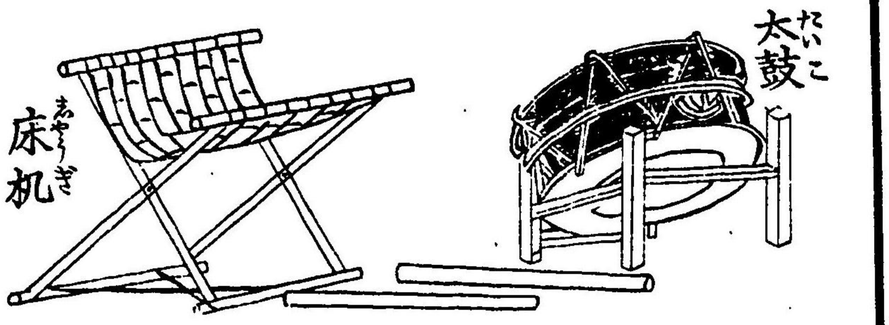
おくられ山桜真野れ入江乃ふなぢ
よひいさ漕よきてこそハ堂
く

同　和遊

名こそ汲浪や志賀唐乃浦ふおつる
ちあるハ都人の痛ハしやは舟よ
白きく浦るを豚め孫へや

同　月見





上、緑樹陰ちつむく魚木よ登る雷
ももも色、
みとあり月海よほむてハらちき
松ハ
こ、ふトリ
ぬをそ一ほの面白れうらの
ぬさや、

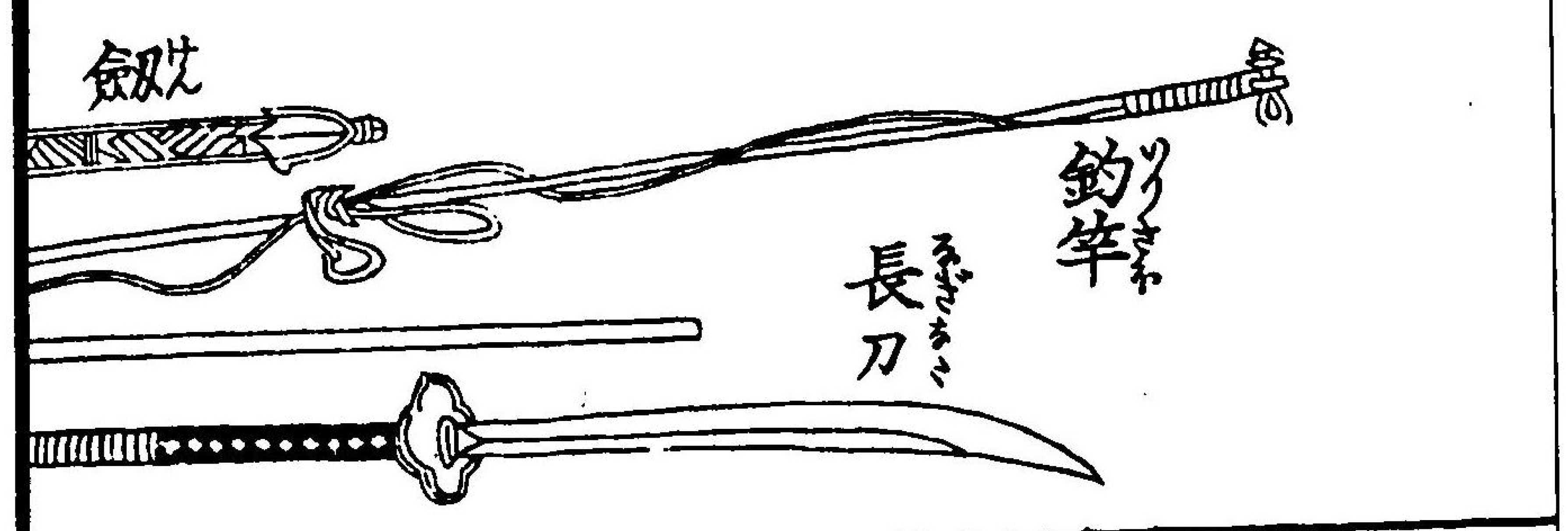
鉾木 雪見

ヤヲハ
ぬさ中ぬ清士乃孝く火をお

上ツヨ

ぬさや、あのてあらり羽衣 春興
ぬそ、ちはま春ふはるもの
ぬまそ、拝ー那ー風の松は光華ー
ぬそ、拝うう。波をおとものあさ
ぬさ、名人おほきをあね
上ツヨうう

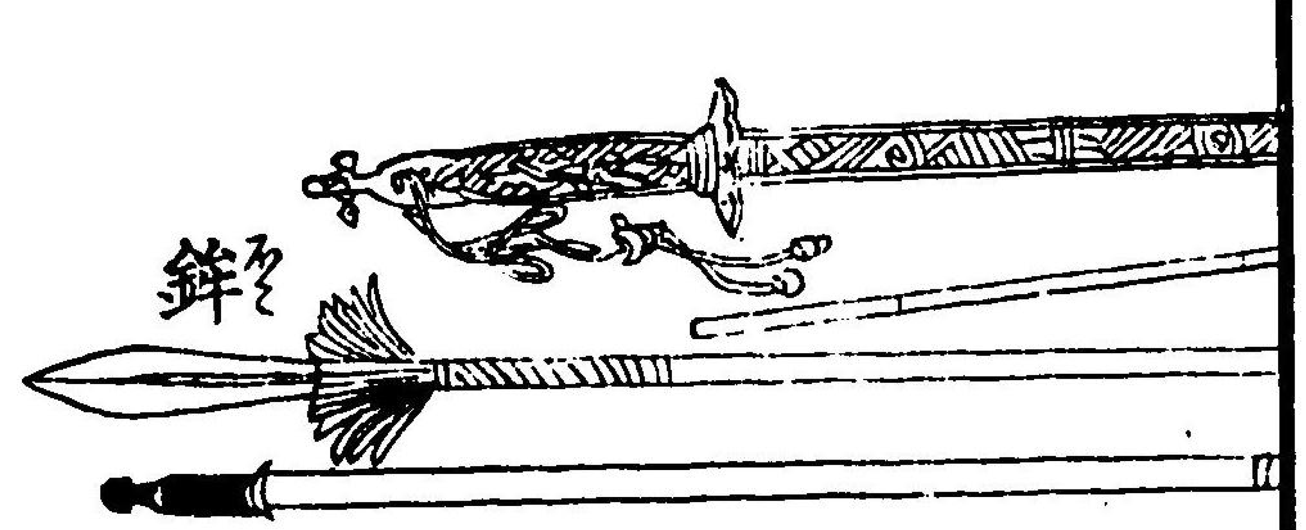
狂言 祝言



潯陽の江乃ほとりにひく琴をたゝえて秋の夜から月に舟をとめ友まつや又うちかくる盃の影を半ばに待居たりし

右近　花見

松も木高き梅うえなたち枝も見えそての色の車めくる日乃あうえや林まつくゝ咲

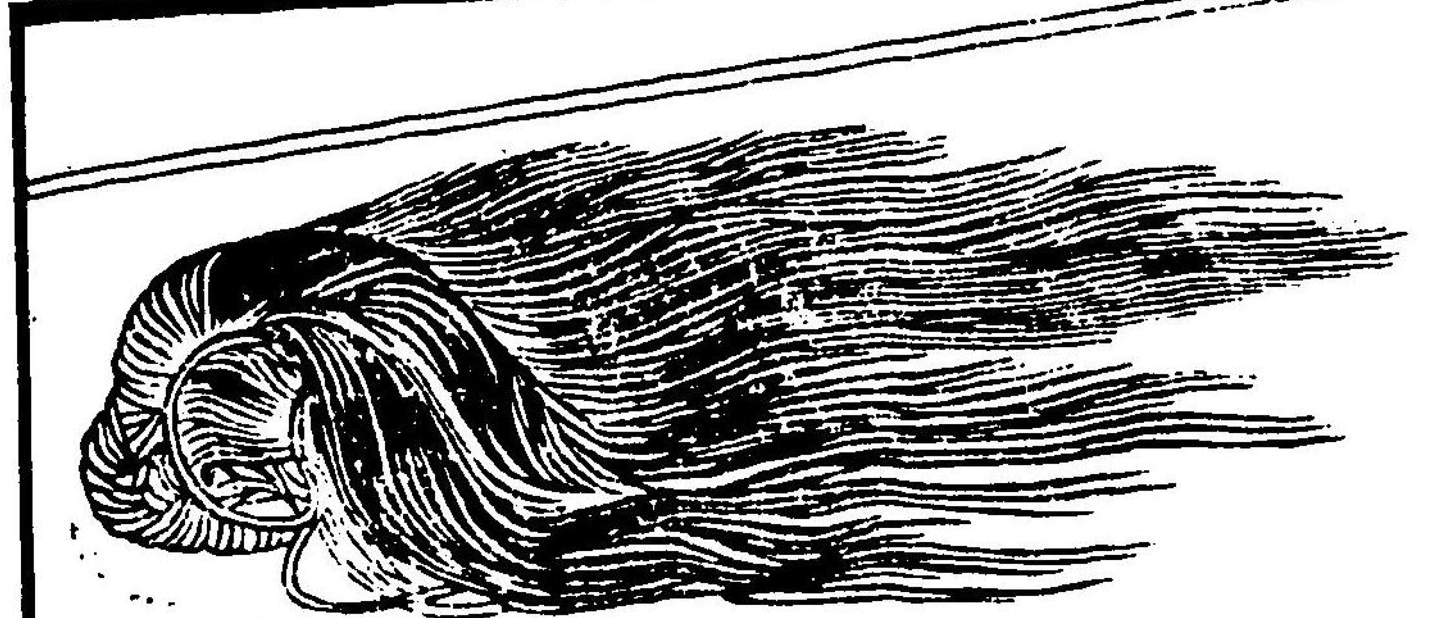


同

実や花の色に偲ん事残るの義景より高き寿る別るで極んいさしくあれくなりあり

関寺小町　入学

たねを心と思ひめぐらひ時移りてこゝろすごくれ去乃ゑしあらハ鳥乃なくもつきぬや



自然居士　和祝

ふねを一葉とうかむるは法の宮より
さしまれり又君乃御庭に龍
頭鷁舟を申も此なる代よりなれ
とそ

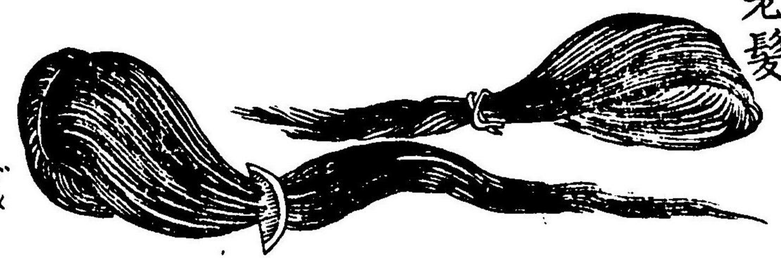
三井寺　月祝

やま田矢走の渡し舟の夜る八
通ふ人もあるとも月の誘ふなれ

のつゝら船もこかれて出る雲のなみひ
やうもあるまいつらむ

放生川　祝言

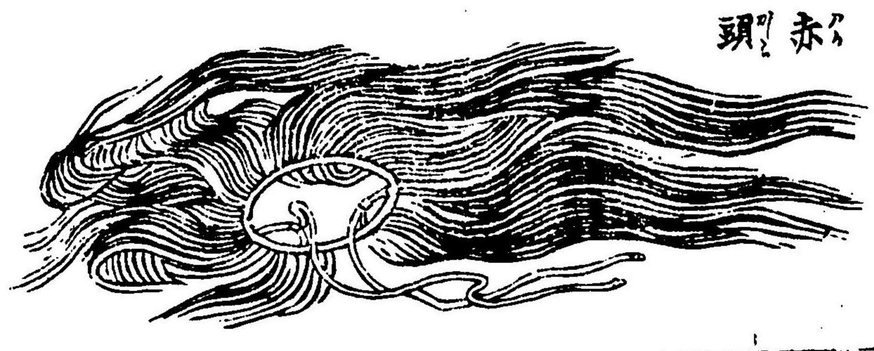
鳩法代に照月乃八幡山宮路乃
ゆふく暮君があめつちくれをう
ゆたかにて枝をならさぬ松の風千
代の声こそ弥増に栽まゝ浮る
社のまへ



ツヨ
上同
ゑいる
一一
ほそそ
一一
おそろ
一一
ちそく
一一
鬼ぬ
一一
そぬる

同 神子

ろくを放さぬと。髪
も同し。油もちそく猪のやみ
ぶ水桶をの底よ河も望へ
ぶ水をうひ錯ふるや水をうひ
ぶ序後のきんのそくそく見
ぶ苔根乃実もするぶを放
ぶ所ひあるこ成りる。



ヨク
三一
僧定
三一
みは
一一
ゑれ

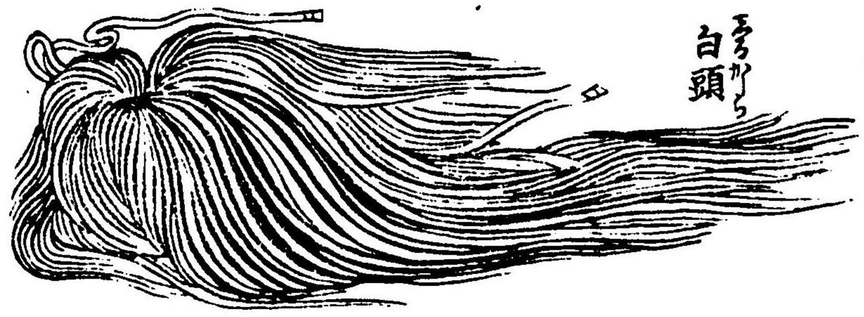
國梱 遊興

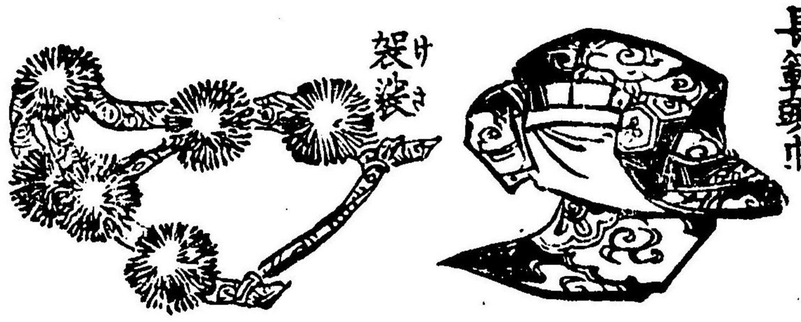
栗のあ所拍鼓鳥あると。是
ぶはいくそ酒るこを宮近く
ぶれ老人よく

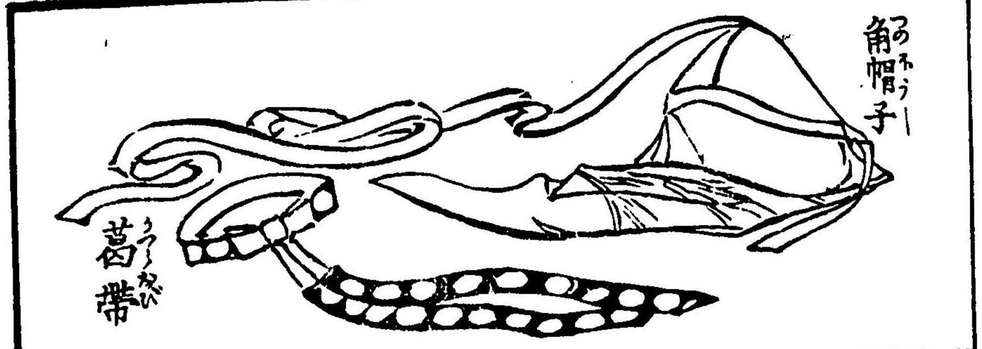
ツヨ
一同
岩根
一一
の末
一一
山そ

同 同

ぶる水よ放せばさこを多敷
ぶ末あるみあきみのよや吉
ぶをつるこ原鳥乃わのそく


白頭


長筴頭巾
袈裟

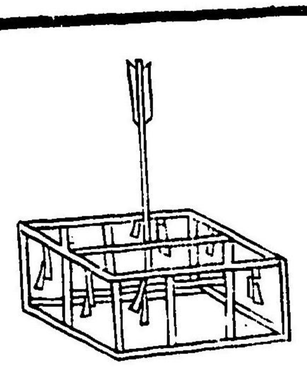


たゝめ、折ほくるゝ、緑海の濱もとゝ
砂乃巻ふもとゝいふ物いの
卯子
もゝのをよゝ
歌 羽凡
陸奥も我も旅なれむつ〻のあとを
いさ我も旅なれむつ〻のあとを
尋ねん
同 祝之

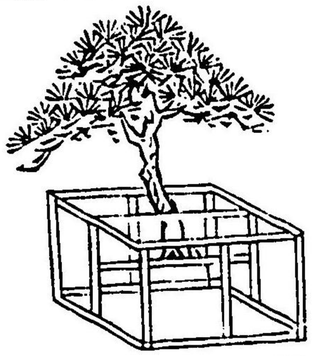
燥いかゝ
さくゝの
社、社
神の代
屋乃
ら
書日能神 祢宜

社のちひもさるゝよゝ泥乃
代より礼まりけてそめる水
屋乃うきまて着ま満つる祢
こゝ笠のそりも雲風も袴をお
ぬ気ら郭〻

千金も
[illegible]
[illegible]
[illegible]



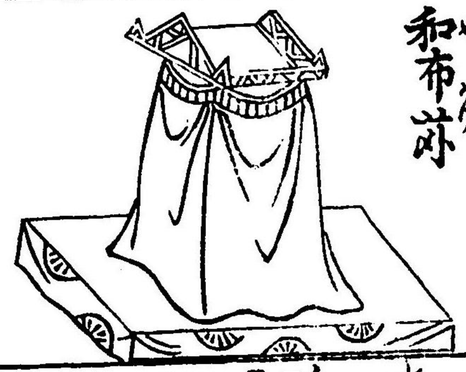
賀茂



高砂

鶯鶺小町　おなり

和布苅

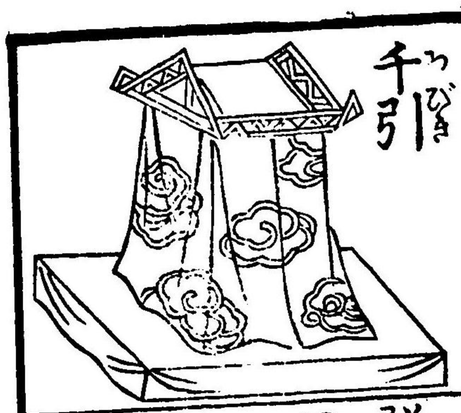


小督

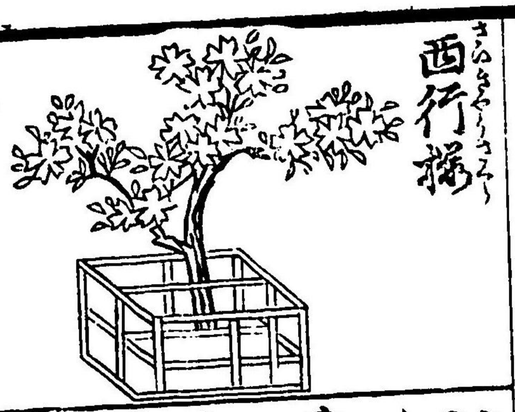
道明寺　神ごと

同　延喜

竹の雪　重見



千引



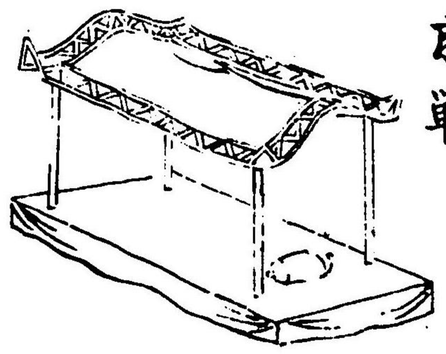
西行桜

いにしへの童さんにつくりをさよ雪を拂ひんそ昔の雪なりけり

詠歌

月日には叶ひしあるを頼こをかきてみしめ縄。

淀海 祝言



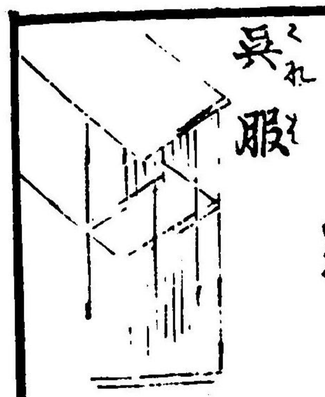
那須野

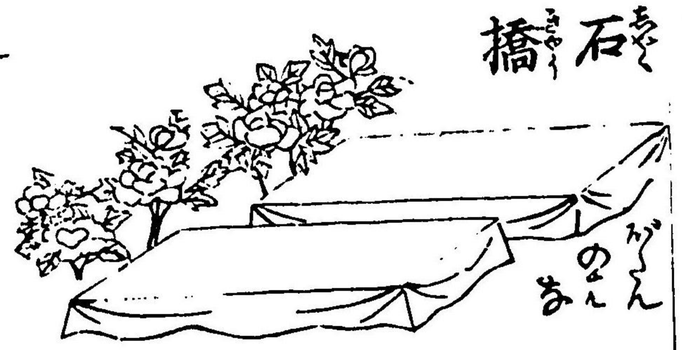
宝家

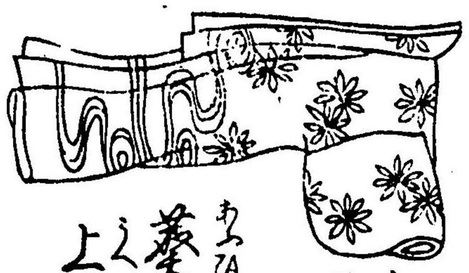
詠歌 祝言

ふるき世をまもる神代の松ならん緑も深き色ぞ見えける

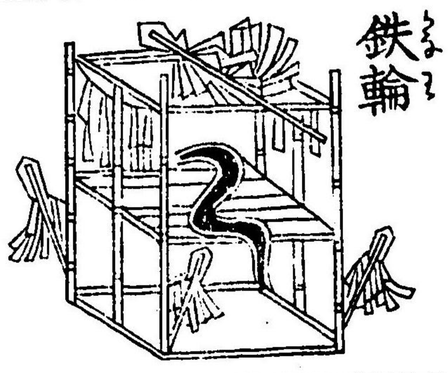
八嶋 遊興


呉服


石橋


小袖

蒲団


鉄輪

雲れ小袖のほれくゝてゝ
弱る夕空も風迄も長閑あり。
まゝや心を傳わらんゝゝ

雲林院　花々

雲えさくらも雪かまくも書れたなめ
手折さくらぬ人はさ有情もさ
有を情ありみ吉野の名れあり
そひ折さくら試こ玩ませくゝ

そまれ綿
敬を原ぬ花さり。四
方れ指を一のは旬ひみをよそ
ふ情の道よ誘ふ老ふ空
ひそれを那心ゝゝ

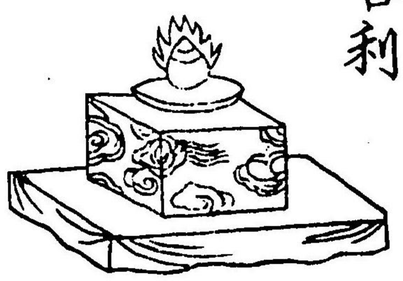
小塩　花ゝ

雪ゝ大系や小塩れ山を今日去

同　雅多

羽衣

舎利



そハ神代を思ひ出れきれ〳〵

小鍛治　祝言

きてハ又一ふし〳〵ハ二ツ道直なる今ハ古代

そハ「一」ハ神代を思ひ出れきれ〳〵

小鍛治　祝言

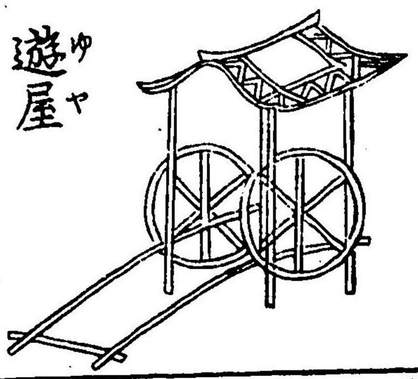
きてハ又一ふし〳〵ハ二ツ道直なる今ハ古代

あれもそも奇特乃ものやきも

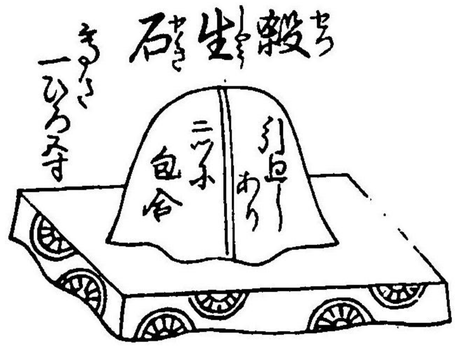
それ乃ミ頼母しき心うれ〳〵

岩舩　祝言

たゞ一ツ妹背の仲ハ二ツ舩



遊屋



市ハ

金銀津々浦々まてさかふる

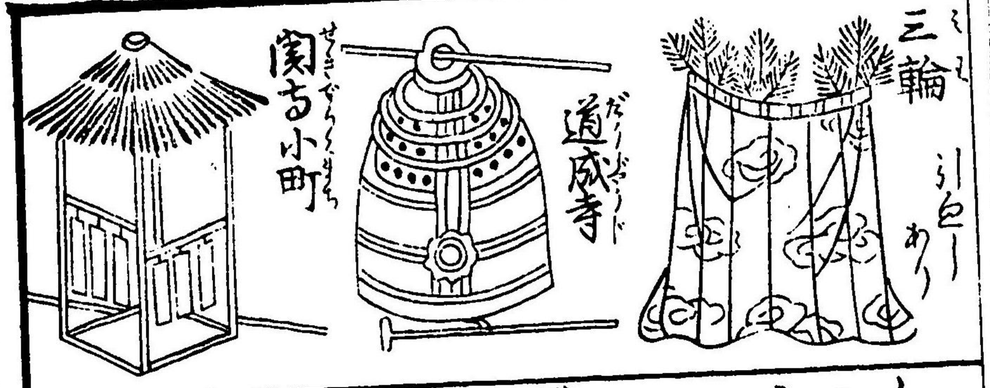
世まてさかふる

大蛇　祝言

上ツヨク

ツヨク

ツヨク

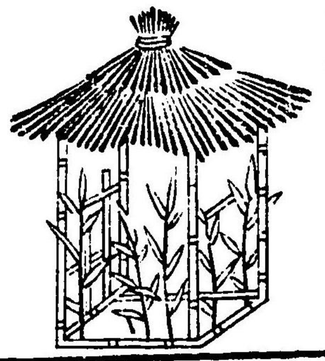


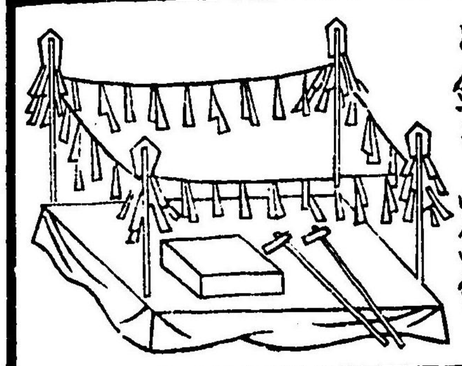
風雅（ツヨク）

[illegible]

[illegible]

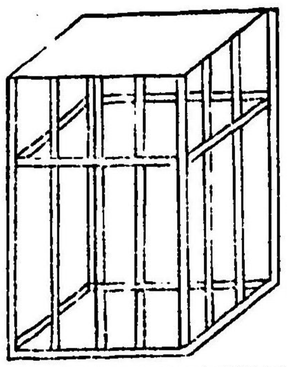
[illegible]


芦苅 あしかり

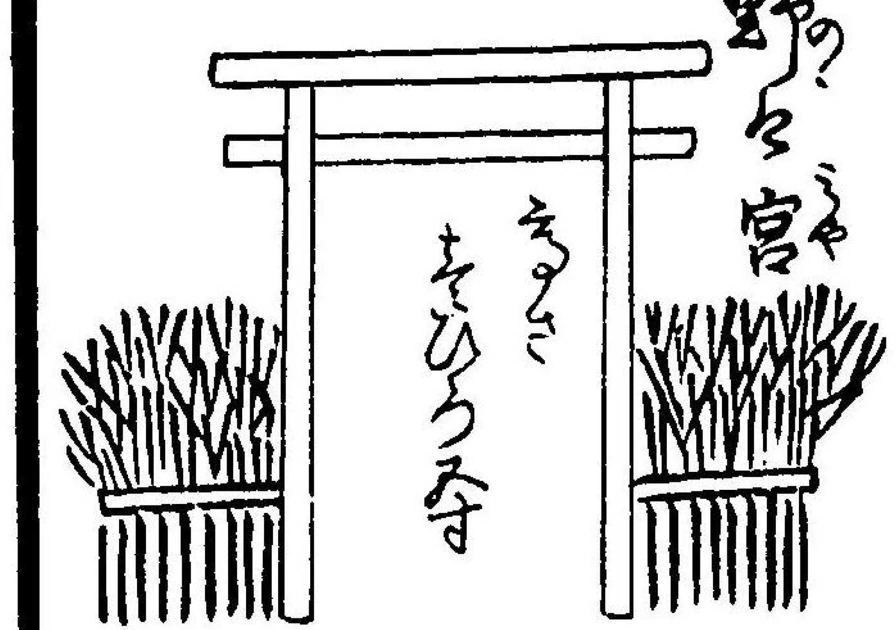

小鍛治 こかぢ

雲雀山 ひばりやま

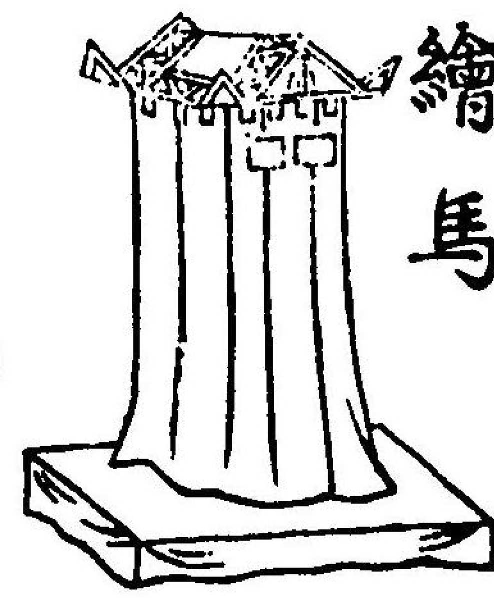
猩々 しやうじやう

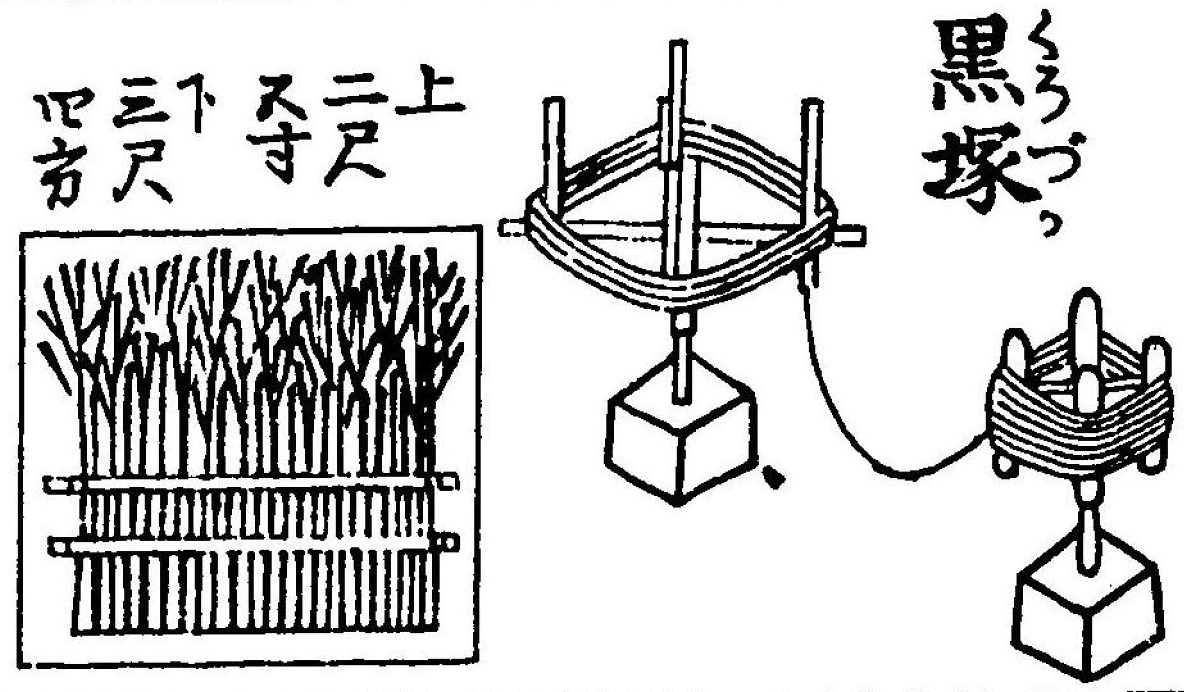

籠太鼓 かごだいこ

芦苅 あしかり 祝言
小鍛治 こかぢ
猩々 しやうじやう
雲雀山 ひばりやま
籠太鼓 かごだいこ



淋ある時も名にや流るゝ峯〽清瀧川
乃あく風ハ宮柱のみ堂とぞ成ぬ〽さ
〽朔日まことに空よ〽空音羽乃
瀧浪ハ〽うきをも知られさしくれて〽戴
く桶も〽身乃上と猶も忘れ老らく
ぬ色も同じ神なさきをぬ日も夏
乃現るゝぞ。浮らふ歌なるあらう。
濁りなくも水路ふの神乃おころ



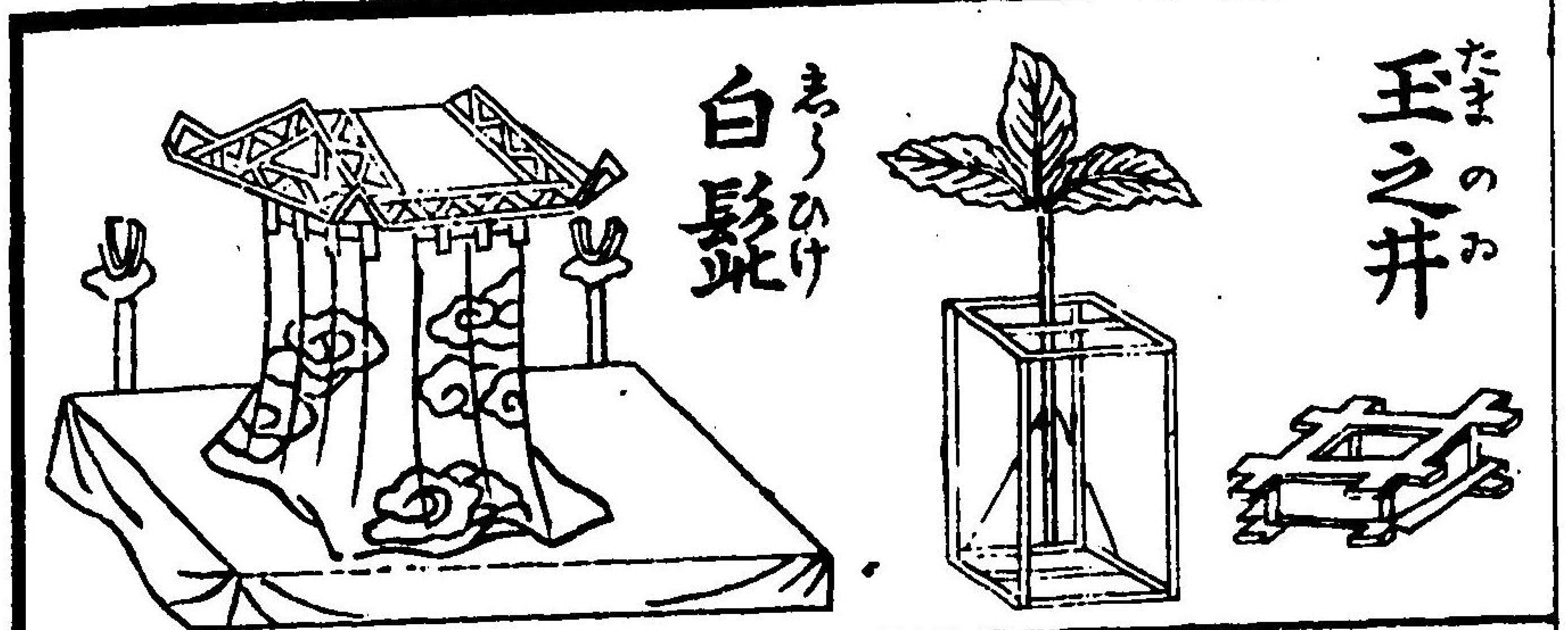


く雨ふよ神の御心くまかなよ

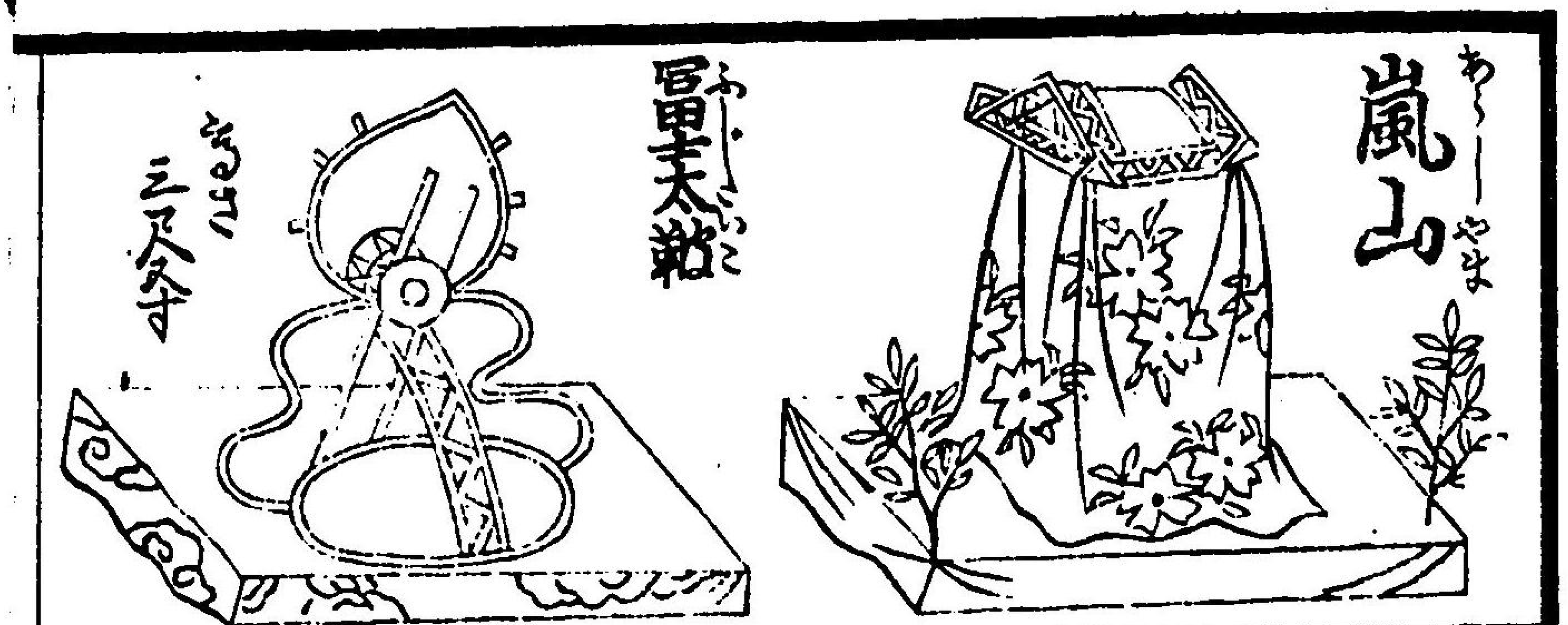
ヨハク上ロンギ地

松風

をこふ春雲よ陰見乃ちるやちら
れ憶ふ手よ〽緑の枝木さきとしふ、
て流るゝ江門垣〽其伊勢の海の
ふるきれ浦二夏ひ世ても出さや〽
要乃村立るむ日ふ海路やとほ
くなるみかゝい〽それいあるみ浮宮ハ



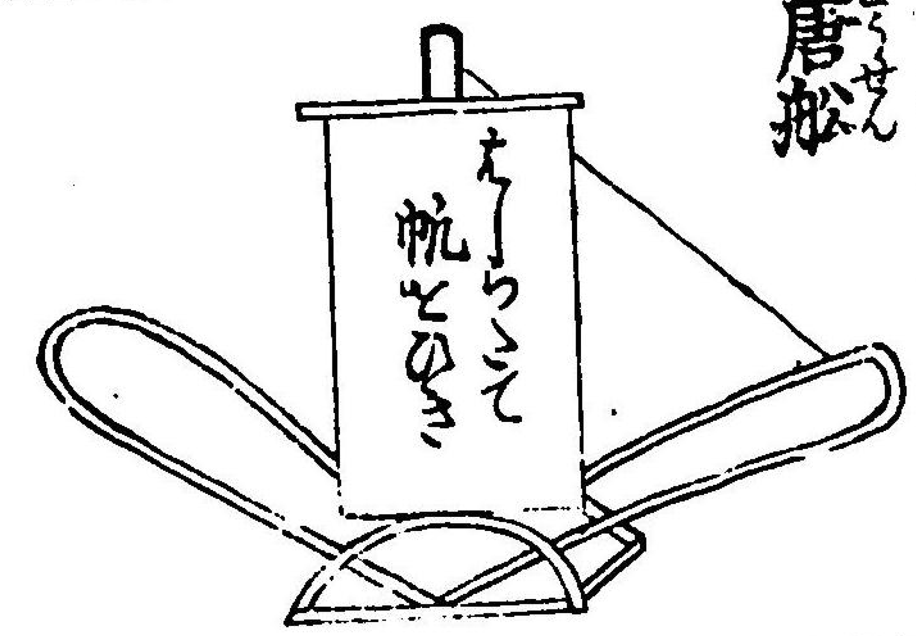
あら浜の松陰に月社さはれ善哉や
松ふり塩屋の煙を人まや
詠もつきぬ桜をさしく家をしまや
まく。これは月こそ桶にあれ星
みも月れりたるや嬉しやまた
も月はり月はまたかゝりかゝるは
河みつしほのよるれ車に月
をのせて。らし其思ひぬ塩路の方や



求塚

ゆき消えの若菜つみ。手にも色ある。
かなしん春はまた河べの水乃雲これ。
浦に嬌るも思心ちして。今年おひゝめ
なつかしき塚のまゝに揚らよ古葉なれ
やまかすの庵をしる若菜の種あれや。
乳をも世を野さき今は野にふく葉つ
みをとこし人乃まゝの袂の揚し雪や

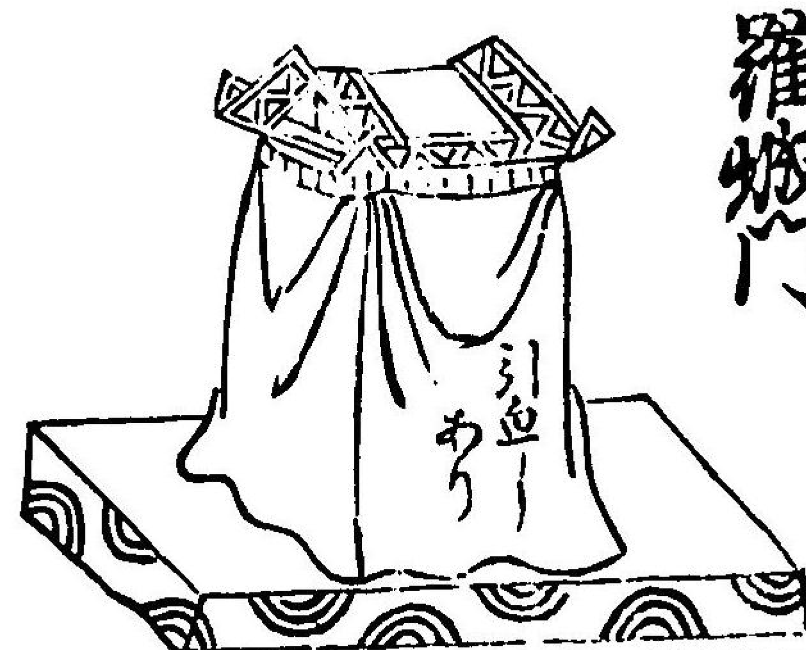
唐船（からぶね）



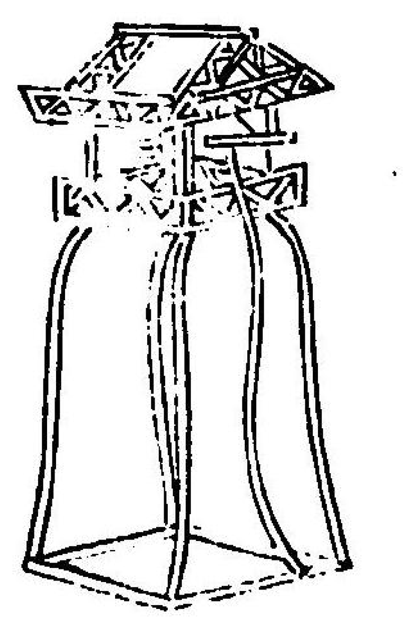
道明寺（どうみやうじ）

なかれ名をとめて姉背に摘む中
絶し佐野の舟橋わたりて霞の色
も名にしぞ添ふ長安の若菜切りて籠にぞ
ろこ若菜を冬の雪に分けて摘ぬる
まさくまさむき小野の松風杜の下枝
松葉くれ若菜をもとは千代の松風
ても縁の根もと枝も松さむし摘
殊さら緑も若菜摘殊に一本

羅生門（らしやうもん）



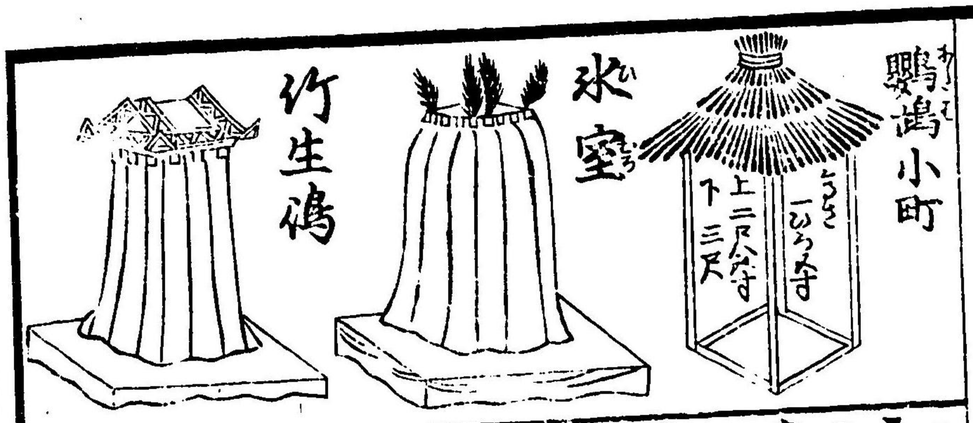
三井寺（みゐでら）



熊野　花宴

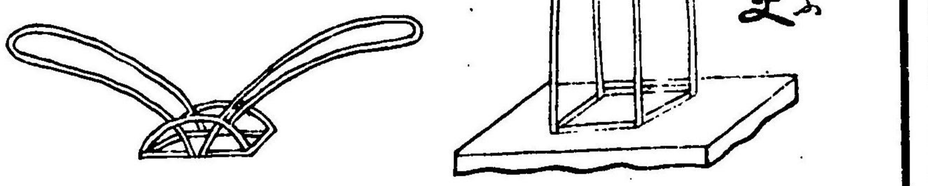
南を遥かに眺むれば大悲擁護の薄霞
熊野権現の移ります御名
も同じ今熊野稲荷の山の薄紅
葉の青かりし葉の秋また花の春
は清水のただ頼め頼もしき春も千々の
花さかり

高砂　祝言



小うたい

鉢木　祝言



鶴亀　祝言

ツヨク下可

よそ乍、よろ寿代まで行
乃松葉の酒くめともつきせ春を
ゆくとしの名残れおのさそをもふ
うしろくと弱る所を松葉屋
ハよろくと。
れ。
夢まぬ宿こそめくたき猩

明治廿九年十二月二十五日印刷
同　年同月三十日發行

富山市大字星井町百廿八番地
校閲者　士族　杉江重一

富山市大字總曲輪三百拾二番地
編纂者　平民　細支次郎

富山市大字大田口町百十番地
發行兼　平民　守川吉兵衛
印刷者